

追分火砕流

様々な地点で観察でき、火砕流の到達範囲を実感

■■■大地の活動■■■

前掛山の噴火で最大の噴火であった1108(天仁元)年の噴火では、大量のマグマが火口からあふれ出て、スコリア質の火砕流として山腹斜面を南北に流れ下りました。これを「追分火砕流」といいますが、特に北麓に流下した火砕流は「大笹火砕流」とも呼ばれています。この火砕流は大規模で、南北の広範囲を覆い尽くしたため、ジオパークエリアの様々な場所で観察することができます。



地蔵川の追分火砕流堆積物

大前地区で見られる追分火砕流堆積物

